

## 筆答問題 [小論文] (その1)

(解答はすべて解答欄に記入せよ。)

次の二つの文章を読み、問一～問三に答えよ。

## 文章 I

あなたは、「健康」という言葉を聞いてどういうイメージを思い浮かべますか。

色々な答えがあると思います。例えば、「健康診断で異常なしと判定された状態」や「血液検査ですべての数値が正常値にある状態」と考える人もいるでしょう。

もしくは、「病気ではないときのこと」と考える人もいるでしょう。まずここから落ち着いて考えてみましょう。病院で病名がつかず病気と診断されることがなくても、すべての数値が正常であっても、「健康だとは思えない」と感じることはありませんか。

実は、「病気」は定義しやすいのですが、「健康」を定義することは極めて難しいのです。世界中の人々の健康を守る目的で設立された世界保健機関 (WHO) は、「健康」を次のように定義しています。

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。

(世界保健機関 [WHO] 憲章前文 [日本WHO協会訳])

「健康」とは、自分自身が「体も心も社会関係も満たされている」と実感できる状態を指すと説明されているのです。

この例からもわかるように、「健康」の定義には客観的かつ普遍的な一律の基準があるわけではありません。むしろその人自身が感じる主観的な感受性こそが大切なのです。

(稲葉俊郎、『からだところの健康学』より)

## 文章 II

病院の臨床現場では西洋医学の知見や技術から多くの恩恵を受けています。私も大学で西洋医学を学び、国家試験を経て医師となり、西洋医学に基づいた理論や技術を生かして現場に立っています。

歴史的に見ると、西洋医学は傷や怪我などの急性期の医療や細菌などによる感染症の対応など、原因が単一で因果関係がわかりやすい分野において目覚ましい進歩を遂げてきました。

一六世紀にポルトガル人やスペイン人によって日本にもたらされた南蛮医学も、江戸時代初期に蘭学を伝えたオランダ人による蘭方医学も、いずれも戦場という極限状況での現場経験から生まれた外科学や外傷学に基づいています。原因が明確で結果もわかりやすい領域が得意です。こうした急性期医療がベースとなり、科学技術の進歩とともに西洋医学は発展してきました。

また、日本の「病院」というシステムは、比較的最近に作られた仕組みです。江戸期後半から明治期にかけて急速に広まりました。医師が免許制となったのは明治維新後の一八七四 (明治七) 年ですから、まだ一五〇年も経っていません。

それ以前は、町医者による在宅診療、民間医療や療術、加持祈祷 (※) など、かなり幅広い療法が行われていました。しかし、免許制度以降は西洋医学の発展も相まって、それらの療法は急速に縮小していってしまいました。

例えば、からだ<sup>ひんし</sup>が瀕死の状態になってしまったとき、そのまま何もせず放置すると死んでしまうような危機的な状況のときは、とにかく何らかの処置をして、生命を生きる方向へと転換させることが急務です。西洋医学にはからだの状態を無理やりにでも大きく変化させる技術があります。それは、これまで人類が積み重ねてきた知恵の結晶であり、私はそういう意味で西洋医学の技術に対して大きな信頼を置いています。

一方で、長期的な視点で「健康」を考えてみると、西洋医学の技術や考え方だけでは不十分だと思ふことが少なくありません。とにかく急いで対応すべき急性期での短期的な視点と、ゆっくりと落ち着いて方針<sup>ね</sup>を練っていく慢性期での長期的な視点では、からだもところも目指すべき目標はまるで違うからです。

短期的な視点で言えば、私が専門としている循環器内科では、心臓の危機的状況を西洋医学の力で救命し得た経験が数多くあります。

一方で、長期的に「健康」を考えるとどうでしょう。例えば、あなたが生まれつき心臓に病を抱えている場合、「健康」とはどういう状態を指すのでしょうか。そのような場合、完全に原因を取り除く、あるいは病を悪者と捉えて排除するなどという発想自体が、そもそも筋違いで間違っているようにも思えます。

(続く)

## 筆 答 問 題 [小論文] (その2)

'21

応

受験  
番号

(解答はすべて解答欄に記入せよ。)

そうすると、外部の基準に従って異常か正常かを考えるよりも、自分に与えられた身心の状態を前提にしたうえで、健康に生きていくとはどういうことかを立ち止まって考えてみる必要があります。そうして出された結論が、その人にとっての「健康」への道につながるでしょう。

(稲葉俊郎、『からだところの健康学』より)

※ 加持<sup>かじきとう</sup>祈祷：神仏の加護を求めて祈ること。

問一 文章Ⅰにタイトルを設けるとすれば何が良いか、答えよ。

「健康」とは何か？

問二 文章Ⅱを読み、「長期的な視点で『健康』を考える」とはどういうことか、50字以内で述べよ。

自	分	に	与	え	ら	れ	た	身	心	の	状	態	を	前	提	に	し	た	う	え	で	、	健	康	
に	生	き	て	い	く	と	は	ど	う	い	う	こ	と	か	を	考	え	る	こ	と	。				

50

問三 あなたの考える「健康」を300字以内で述べよ。

※	各	自	の	考	え	を	述	べ	る	問	題	で	あ	る	た	め	、	解	答	例	は						

示さない。


100

200

300